

『平成26年度未病産業の創出に係るモデル事業』の取組み

遺伝子検査＋スポーツクラブを活用した一般成人
の予防・未病に関する行動変容についての
実態調査



DeNA L/fe Sc/ence

スポーツクラブ会員を対象とした行動変容の調査

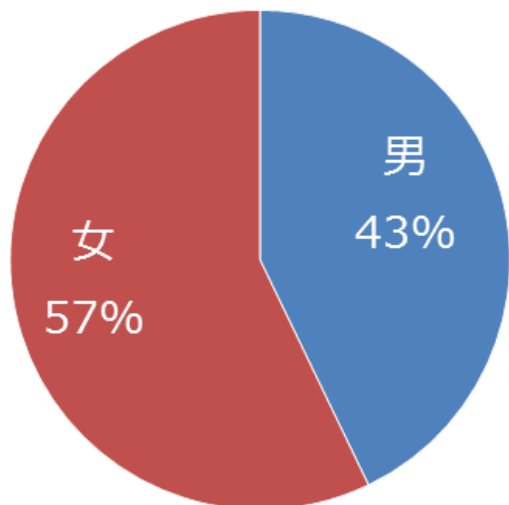
【目的】

運動習慣のある、健康情報に対して敏感と思われる集団を対象に、遺伝子検査による行動変容の実態を調査し、遺伝子検査＋スポーツクラブを活用した新しい予防・未病対策についての可能性を検討する。

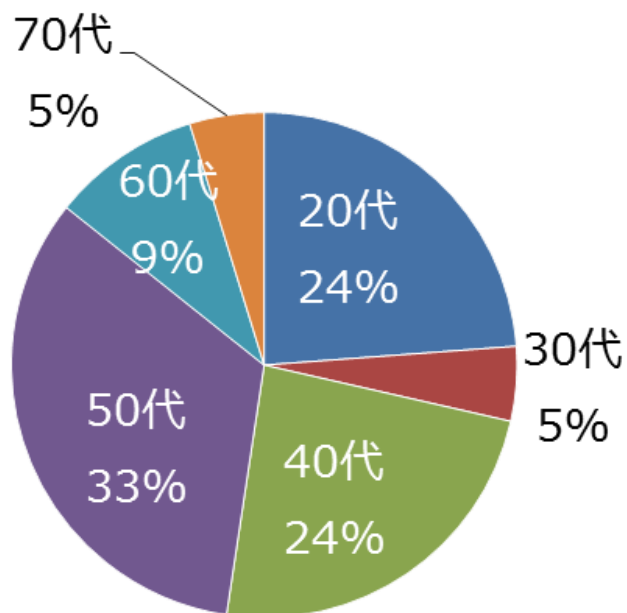
【調査の対象】

東急スポーツオアシス港北店の会員21名

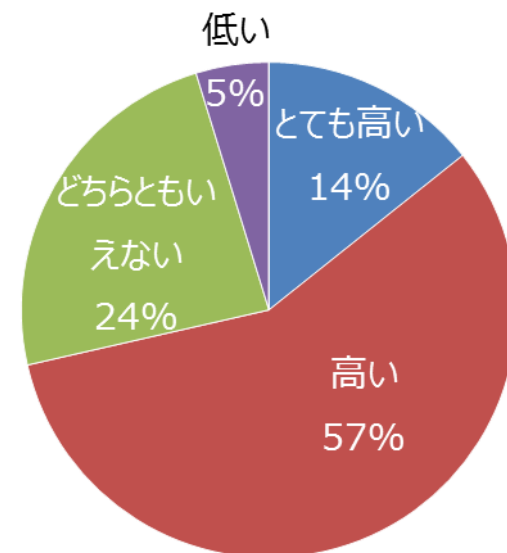
性別



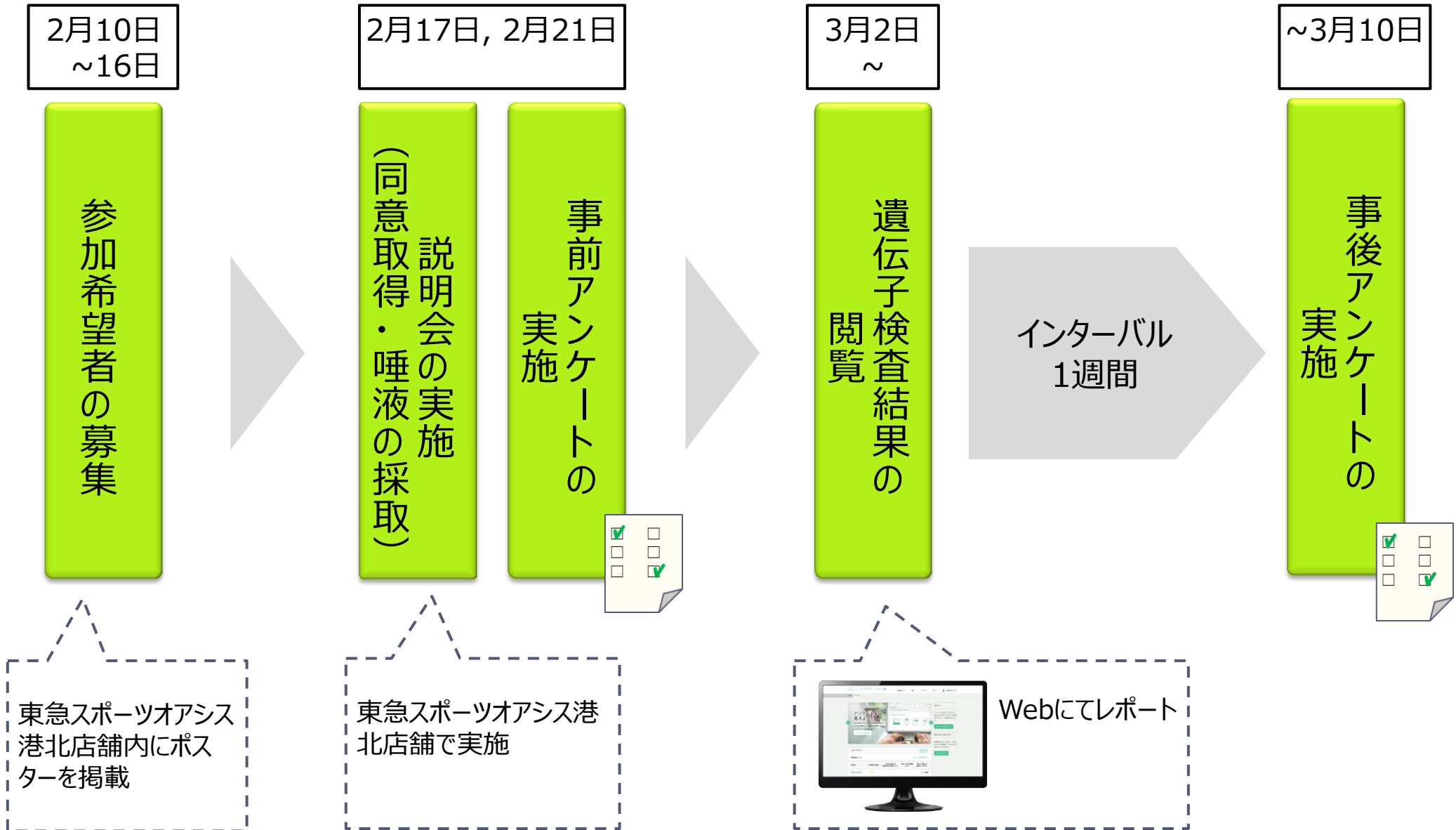
年代別



検査前の健康意識



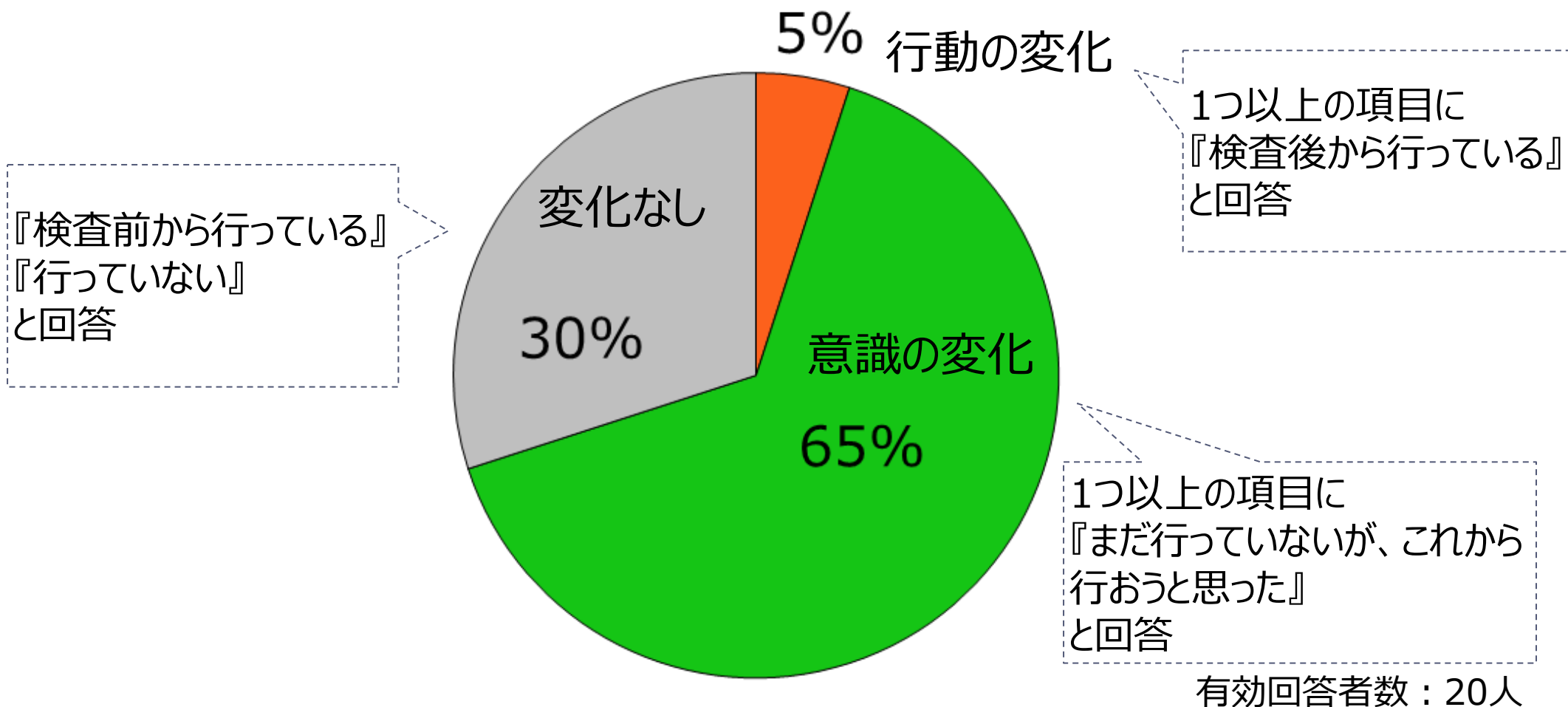
調査方法の概要



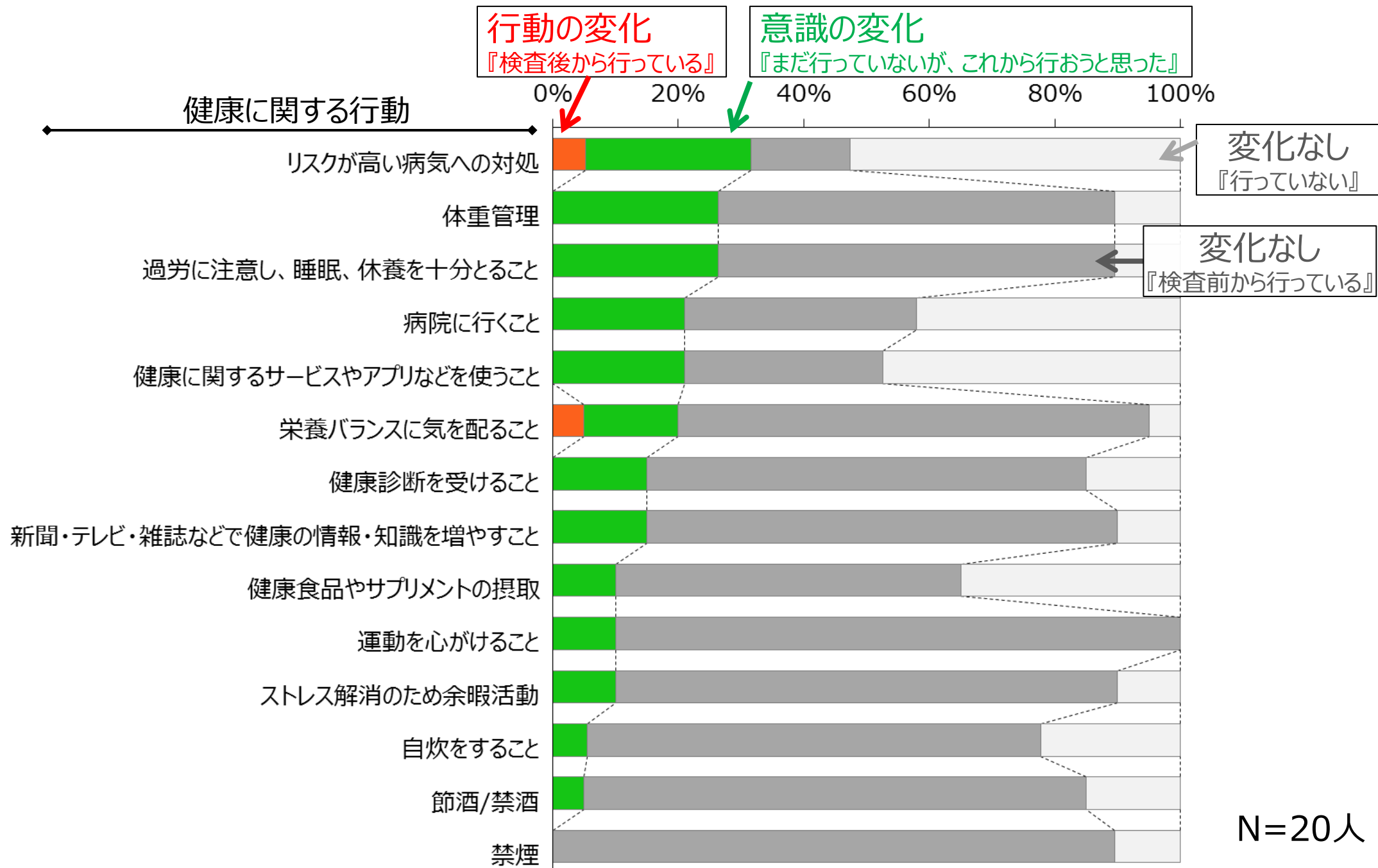
[結果①] 遺伝子検査による意識・行動変容

食事、運動、健診受診などの健康に関する行動について、遺伝子検査後の意識・行動変容を調査。

⇒ 70%の人に意識や行動の変化が見られた
(期間が短かったため、意識変化が大半)

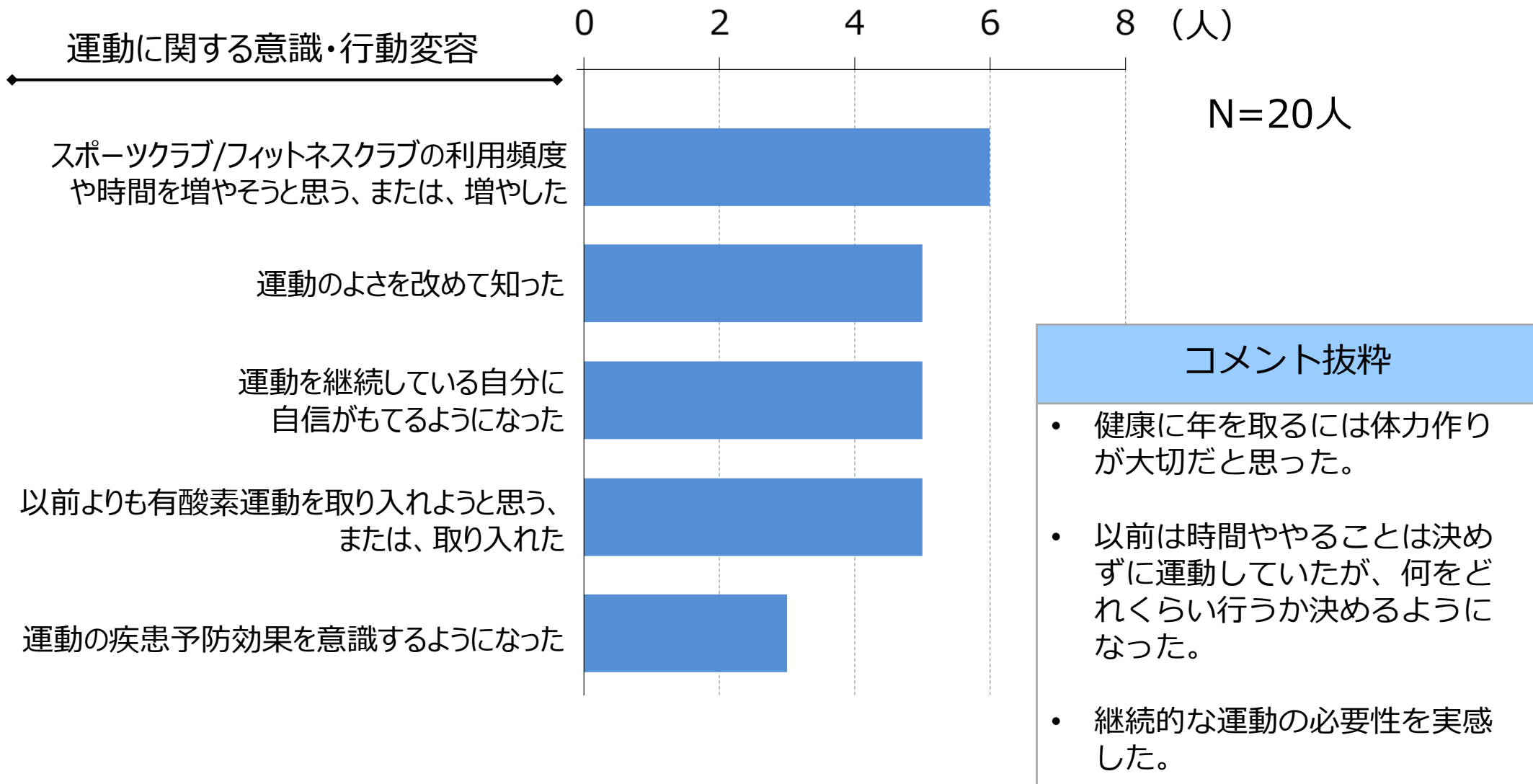


[結果②] 意識・行動変容のみられた項目



[結果③] 運動に関する意識・行動変容

運動に関しても、84%の人にスポーツクラブ利用頻度向上の意識・行動変容や、『運動のよさを改めて知った』という運動意義を見直す気づきがみられた。

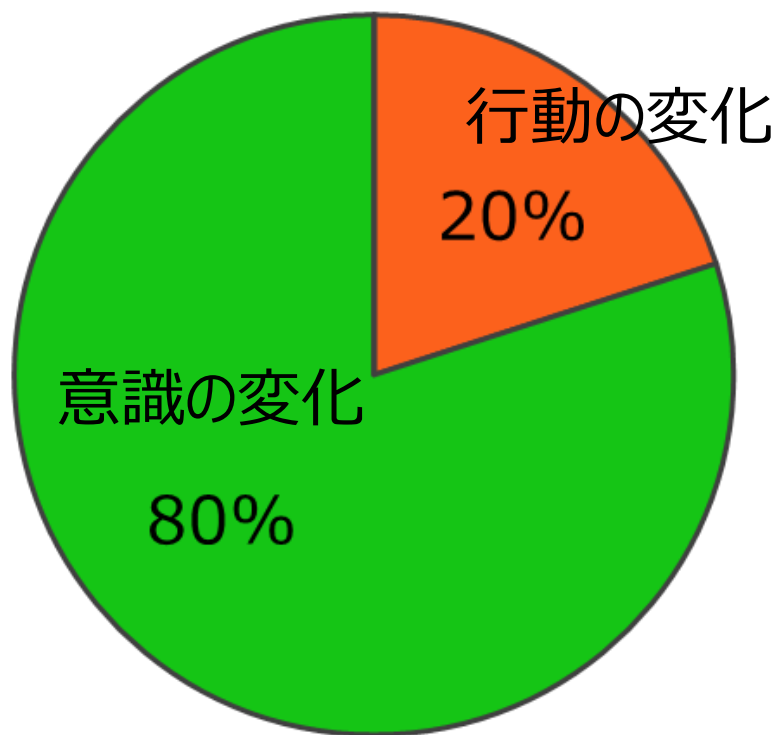


[結果④] 健康意識の違いによる意識・行動変容の特徴

検査前の健康意識の高低による、遺伝子検査後の意識・行動変容の特徴を分析
⇒ 「健康意識が低い群」では、全員に意識・行動変容がみとめられた。

検査前の健康意識

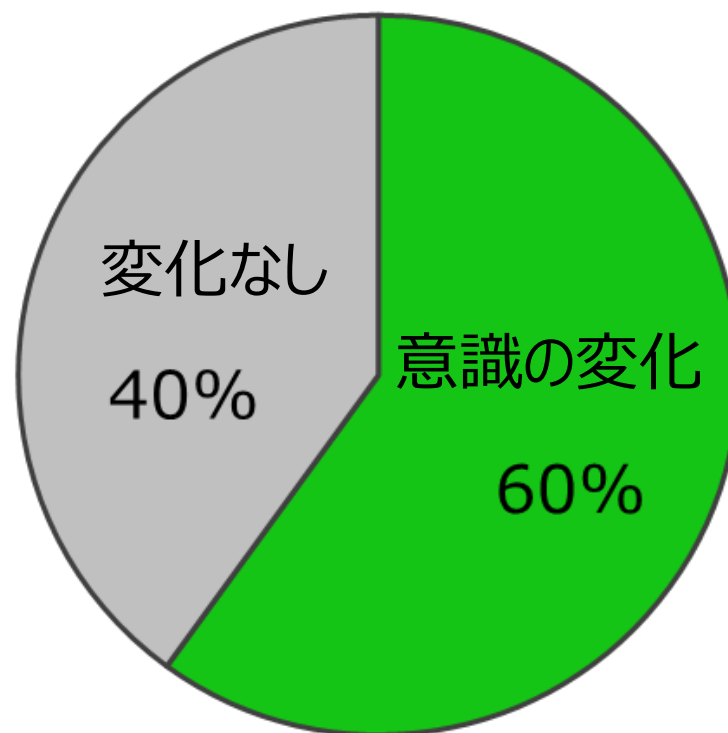
低い群※ (N=5)



※検査前の健康意識に『低い』『どちらともいえない』と回答

検査前の健康意識

高い群※※ (N=15)



※※検査前の健康意識に『高い』『とても高い』と回答

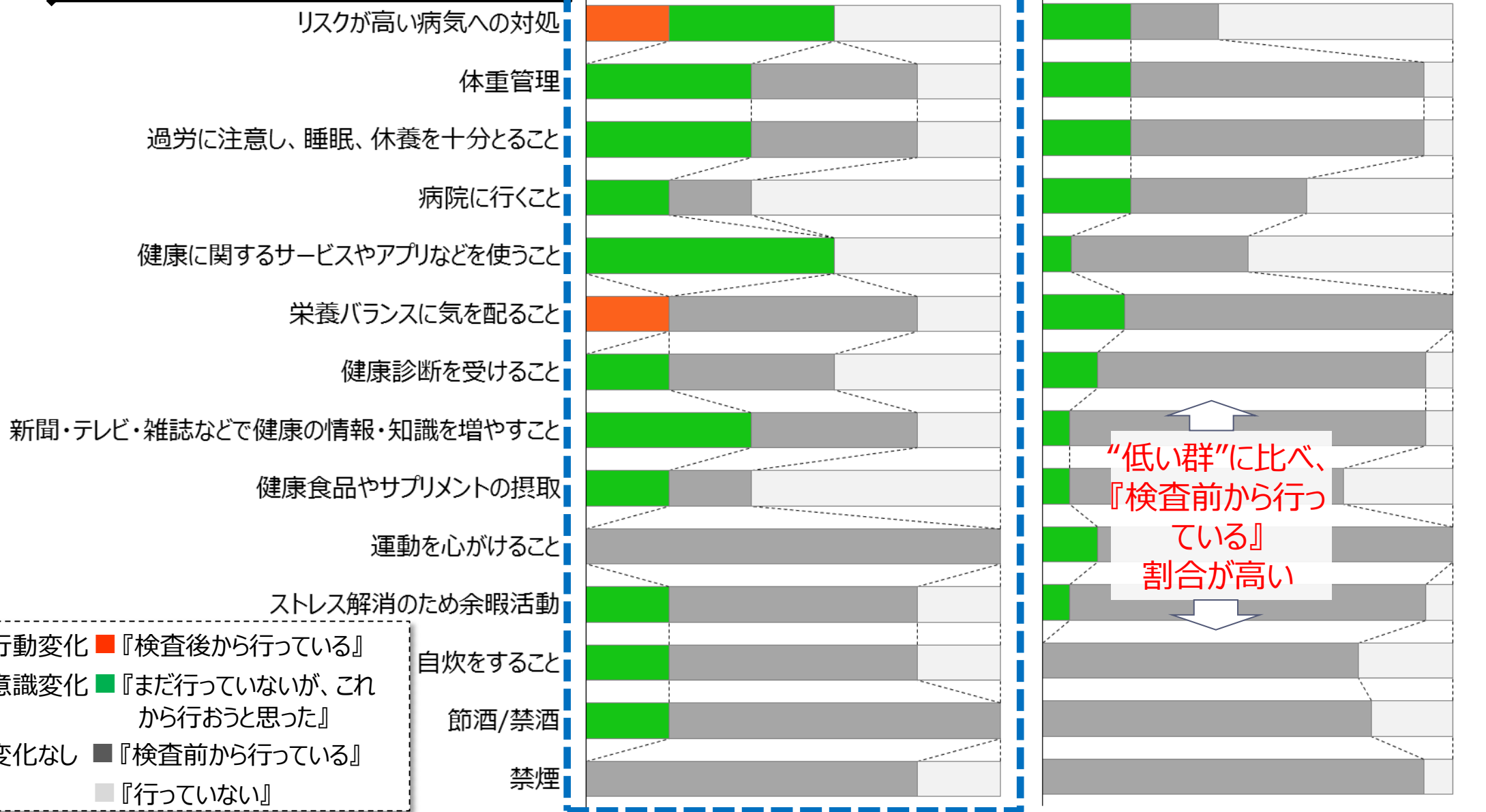
[結果⑤] 健康意識の違いによる意識・行動変容の特徴

検査前の健康意識

低い群 (N=5)

高い群 (N=15)

健康に関する行動



本モデル事業から得られた示唆

- 全体の70%の人に生活習慣改善の意識・行動変容がみられた。
- 全体の84%の人にスポーツクラブ等での運動意義を見直す意識・行動変容がみられた。

運動習慣のあるスポーツクラブの既存会員でも、『遺伝的な傾向』という新しい情報を得ることで、予防・未病に向けた行動につながることを示唆される。

- 検査前の健康意識が低い群（健康低関心層）が意識・行動変容につながりやすい傾向がみとめられた。

健康低関心層に対して遺伝子検査を取り入れることで、生活・環境の改善への効果が期待される。

事業化の見通し・課題

<遺伝子検査 + スポーツクラブを活用した予防・未病対策の提案>

健康**高**関心層
(健康意識高い)

- メニューの1つとして遺伝子検査を提供し、健康行動の重要性の再認識を促し、**健康意識の維持・更なる向上**をサポート

健康**低**関心層
(健康意識低い)

- 遺伝子検査とスポーツクラブ入会を組み合わせることにより、**健康意識の変容とそのソリューションである運動を関連付け**
- 運動が習慣化できていない会員へのメニューとして遺伝子検査を提供し、**スポーツクラブ利用率/継続率の向上**をサポート

<課題>

① 遺伝子検査の費用負担

(参加者21人中5人が遺伝子検査の費用が受診の障壁となることを指摘)

② 行動変容の継続性の検証

(今回は期間が短かったため、行動変化やその継続性まで捉えられなかった)

補足資料

[補足] 検査前の健康意識の低い群/高い群の特徴

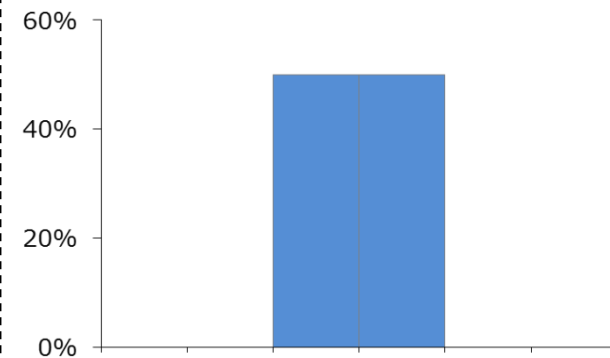
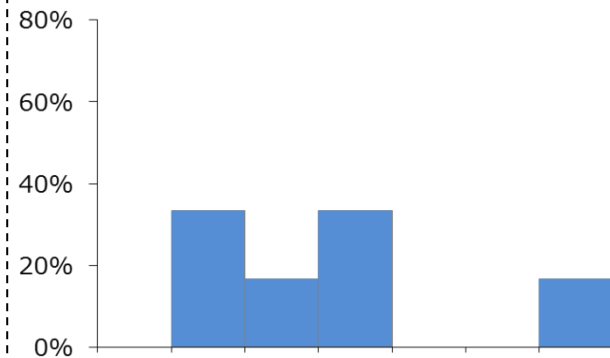
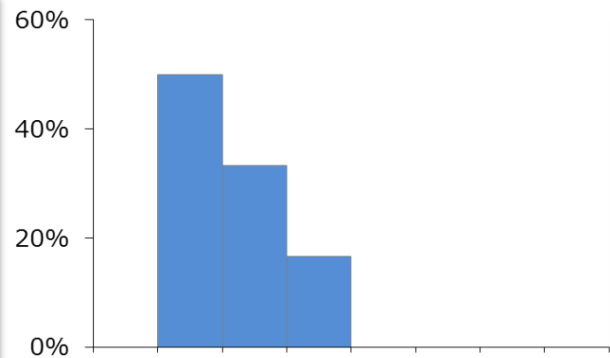
検査前の健康意識

スポーツクラブの利用頻度

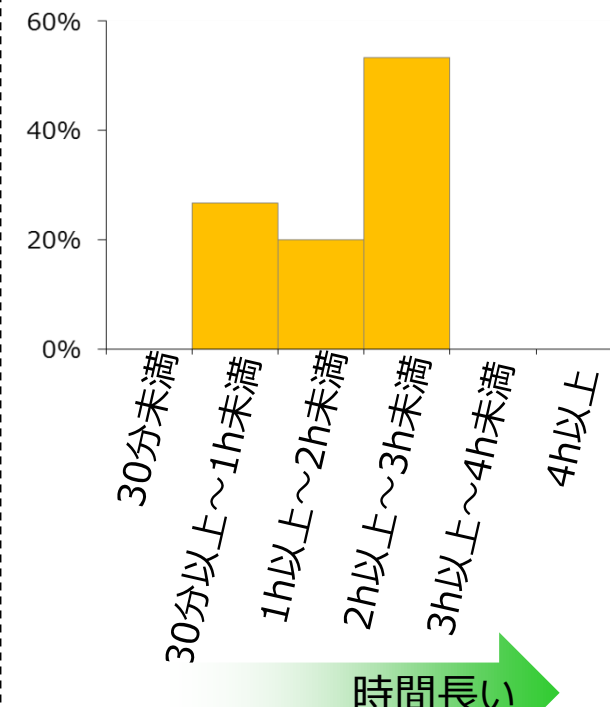
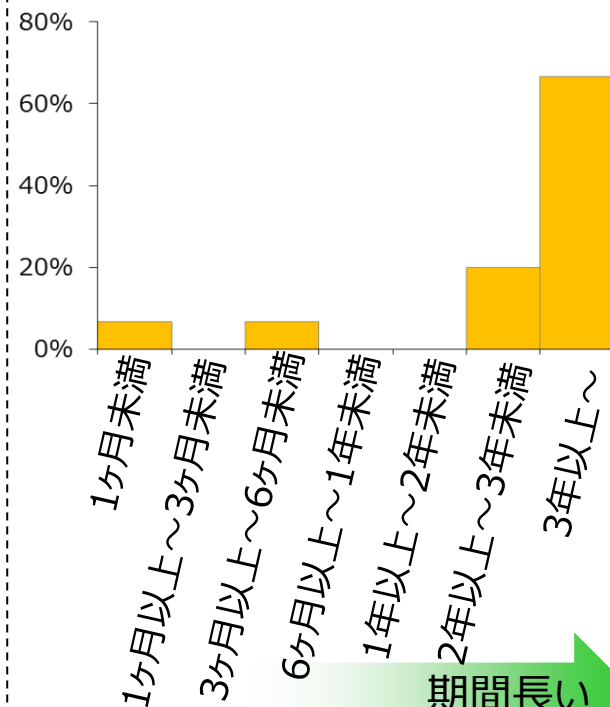
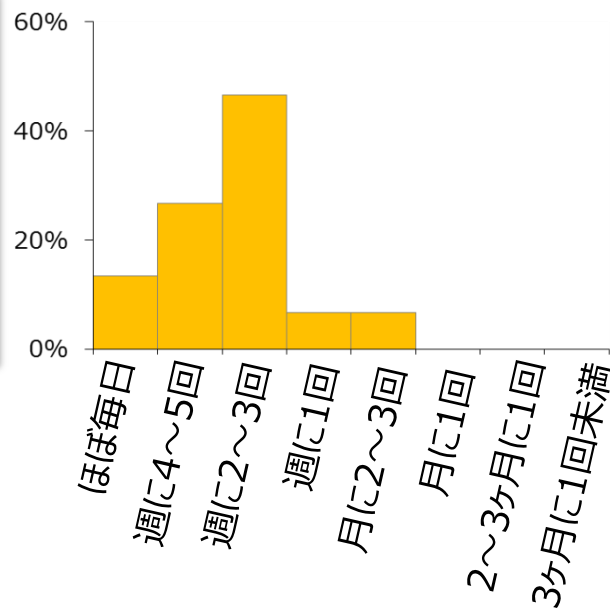
スポーツクラブの継続利用期間

スポーツクラブの1回の利用時間

低い群
N=6



高い群
N=15



← 頻度高い

→ 期間長い

→ 時間長い

[補足] 検査前の健康意識の違いによる特徴

検査前の健康意識の低い群では、5人全員に運動に関する意識・行動変容がみられたが、高い群では71%であった。

